

事例1

K.K	様	男性	68歳	要介護度	1	
既往歴	アルツハイマー型認知症・糖尿病					

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 3080	1750	1650	3050	2930	1450	2100
	終了時 2350	2300	2650	3000	2650	2700	3100
栄養 (食)	開始時 3	3	3	3	3	3	3
	終了時 3	3	3	3	3	3	3
排泄 (回)	開始時 1	0	0	0	1	1	1
	終了時 2	1	不明	不明	不明	不明	不明
運動 (分)	開始時 30	10	なし	15	15	30	なし
	終了時 15	20	30	15	15	30	15

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 2287cc	糖尿病があるため、目標を3000ccへ設定。	平均: 2678cc 水分をおかわりするようになった。
栄養	初回平均: 1600kcal 現状維持 BMI: 20.0		現状維持
排泄	初回平均: 4回 自然排便 月1. 2回の便失禁あり	排便の有無を確認出来ないため、ご本人にも記録をして頂く。	排便間隔は確認出来なかった。 便失禁はしなくなつた。
運動	初回平均: 14分 体操 ホール内の歩行	役割を持って頂きながら30分運動する時間を確保。 散歩	平均: 20分 時間を自分で見て体操をするようになった。

3. 認知症状の変化

参加前の症状	改善度
①夜間、時間の勘違いがある	消失
②他利用者様の言動に細かく反論し、口論になる	消失
③自室で一様になっている時間が多い	消失
④長トイレ(1時間以上)が夜間ある	消失
⑤すぐに忘れてしまうため、排便確認ができない。声掛け時いつも「ない」と答える。腹部不快はない様子	消失

4. 塾参加後の様子

塾参加前は、自室で過ごすことが多く、時々、イライラする言動が見られていましたが、時間を見て自ら運動をするようになりました。外を散歩する時は、色々な話をしたり、笑顔が見られるようになりました。体調も安定され、インシュリンも8単位→6単位になり、薬も4種類

5. 大里コメント

基本ケアが早期より実施されていたため、2か月の取り組みで認知症状を全て消失する事が出来ました。体調を整える事で減薬することも出来ましたので、今後も継続していきま

事例2

M.T	様	女性	80歳	要介護度	2	
既往歴	脳血管性認知症・高血圧性心疾患・永続性心疾患・脂質異常症					

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 1150	1750	1050	1300	1000	1000	1000
	終了時 1500	1450	1500	1500	1500	1500	1500
栄養 (食)	開始時 3	3	3	3	3	3	3
	終了時 3	3	3	3	3	3	3
排泄 (回)	開始時 1	1	1	0	1	1	0
	終了時 1	1	1	1	1	1	1
運動 (分)	開始時 20	0	20	0	20	30	20
	終了時 30	20	30	20	30	40	30

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 1178cc 水分は、あまり好きでないと話し飲まない。	水分のバリエーションを増やす(好む飲み物、好む温度を探す) 目標を1500ccへ設定	平均: 1492cc リンゴジュースが好きポカリスエット・紅茶・コーヒー
栄養	主食:全量・副食: 1/2		摂取量は変化なし
排泄	初回平均: 週5日 下剤なし		平均: 週7日 毎朝観察される
運動	初回平均: 15分 車椅子の足漕ぎ レクレーション	トイレ排泄時につかり立ち(10秒×2回) 歩行訓練	平均: 28分 自ら運動をするようになつた。体操・つかまり立ち40秒可能

3. 認知症状の変化 *最終回参加できずデータなし。

参加前の症状	改善度
入眠まで時間がかかる	消失
夕方から車椅子でホール内を動き回る	消失
夜間、ベッドに寝る際、枕元に靴を置く	消失
私物への執着	消失
尿失禁や便失禁もあり、弄便行為も見られている	消失
言動も意味不明のことがある	消失
車椅子につかり立ちして、押そうとしている	消失
危険への観念がなく、自席では立ったり座ったりする	消失
他居室に入って寝ようとする	中等度改善

4. 塾参加後の様子

水分摂取量が1500ccになってから話し方も穏やかになり、強い拒否もなくなり、会話も言葉が出るようになりました。また、風邪をひき水分量が減少したら認知症状が再発したため水分の重要性を感じました。

5. 大里コメント

データをきちんと取り、認知症状を観察されていたため、2か月で8つの症状を消失する事ができました。今後も体調を整えながらケアを進めていきましょう。

事例3

R.O	様	女性	85歳	要介護度	2	
既往歴	アルツハイマー型認知症・骨粗しょう症					

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 1200	1250	1250	1100	1200	1150	800
	終了時 1500	1450	1200	1400	1400	1200	1050
栄養 (食)	開始時 3	3	3	3	3	3	3
	終了時 3	3	3	3	3	3	3
排泄 (回)	開始時 1	1	0	1	0	1	1
	終了時 1	0	2	1	0	1	0
運動 (分)	開始時 20	80	60	60	20	40	40
	終了時 40	70	30	50	30	30	10

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 1135cc	普段使用している湯飲みで100cc計り1時間に1杯のペースで提供した。	平均: 1314cc
栄養	1日3食きちんと食べていた BMI22.4		食欲はあるが、時々ご飯を残すことがあった。
排泄	初回平均: 週5回 便秘気味で10日も排便がない日もあった。	水分を1500cc目標で進めた。	平均: 週4回 順調に出るようになった。浣腸をすることが無くなった。
運動	初回平均 : 17分(自宅) 28分(デイサービス)	ご家族が朝・夕方の散歩を行ってくれた。	平均: 20分(自宅) 17分(デイサービス)

3. 認知症状の変化

参加前の症状	改善度
デイサービス利用時、不穏になる	消失
デイサービス利用時、家に帰ると言って玄関に行く	消失
鼻をかんだティッシュを服のいろんなところに隠す	消失
言語能力の衰え(自分から会話を切り出せない、固有名詞が理解できない)	消失
娘以外の人物がわからない、できごとを5分以内で忘れる	変化なし

4. 塾参加後の様子

散歩をする際、手をつないで歩くことが多かったが、自らから手を離し歩けるようになった。また、自ら発する言葉が多くなり、「音楽消していいよ」「これ作ったの」など質問するように

5. 大里コメント

娘さんが散歩や買い物へ一緒に行動することで社会との繋がりが継続され、必要な水分が摂れることで覚醒レベルが上がり、周りにも関心を持つ発言が出てきました。これからもコンサートなど一緒に楽しんでほしいと思います。

事例4

S.K	様	女性	85歳	要介護度	4	
既往歴	アルツハイマー型認知症、心筋梗塞、尿管結石					

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 1100	1000	1000	1200	1100	1200	1200
	終了時 1320	1200	1250	1200	1320	1350	1350
栄養 (食)	開始時 3	3	3	3	3	3	3
	終了時 3	3	3	3	3	3	3
排泄 (回)	開始時 1	1	2	1	1	1	1
	終了時 1	1	1	1	1	1	1
運動 (分)	開始時 10	5	0	10	5	10	0
	終了時 30	30	30	0	20	10	40

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 1114cc	水分提供時間を増やした。 自ら飲まない時は、声がけして促した。	平均: 1284cc
栄養	1日3食全量摂取	食欲があるため、提供量を増やした。	1日3食摂取
排泄	初回平均: 週7日	排便が硬いため、水分量を増やした。朝に排便が無い時は、水分量を多めに提供した。	平均: 週7日
運動	初回平均: 5分 入浴日以外新聞紙やおしほりたたみを行う移動は車椅子全介助。	車椅子操作を教え、ゆっくり自走していただいた。	平均: 22分 車椅子の自走

3. 認知症状の変化

参加前の症状	改善度
他入居者様の食事を食べようとする	消失
落ち着きがなく、車椅子からの立ち上がりがある。	消失
夜間、オムツはずしがある	消失

4. 塾参加後の様子

排便が見られる時間帯が、4時から6時ごろで、その時間帯に排便が見られない時は水分量を増やすことで排便が見られ、ろう便することがなくなった。オムツカバーを使用していましたが、リハビリパンツへ変更することができた。

5. 大里コメント

排便の時間帯、出ない時に水分量を増やすなど、S.K様の状態をきちんと把握することが出来たため、オムツを外すことが出来ました。よく観察できていました。S.K様は、立ち上がり歩くことが見られることから、歩く力はあると考えます。出来れば安全に歩くことが出来るよう步行訓練を行い、自分で行動できる範囲を広げましょう。

事例5

O.T	様	女性	91歳	要介護度	3	
既往歴	アルツハイマー型認知症、高血圧					

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 1270	1200	1200	1270	1270	1370	1200
	終了時 1270	1400	1270	1370	1370	1470	1370
栄養 (食)	開始時 3	3	3	3	3	3	3
	終了時 3	3	3	3	3	3	3
排泄 (回)	開始時 1	1	1	1	1	1	1
	終了時 1	1	1	1	1	1	1
運動 (分)	開始時 20	20	20	10	10	10	16
	終了時 20	20	30	30	30	20	30

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 1254cc	10時のコーヒーかお茶のどちらかを飲み終えた後に提供すると飲んで頂ける。	平均: 1360cc
栄養	初回平均: 3食全量摂取 他者の食べ物を食べる	3時のおやつにリンゴなど腹持ちの良いものを提供する。	平均: 3食全量摂取 盗食しなくなる。
排泄	初回平均: 週7日 軟便時不穏になる	軟便になる原因を追及し、いつも飲んでいる清涼飲料水が原因と分かる。	平均: 週7日 軟便が減り、不穏にならなくなつた。
運動	初回平均: 15分 ホール内歩行を10~20分行う。	変形性膝関節症と診断されたが、本人の体調に合わせ歩行を行う。	平均: 25分 ホール内歩行を25分~30分毎日行う。

3. 認知症状の変化

参加前の症状	改善度
入浴の声掛けを行うと、不穏になり、ホールのソファやベッドから動かなくなる	消失
他入居者のおやつを盗もうとする	消失

4. 塾参加後の様子

水分量を少しずつ増やすことで問題行動や拒否がなくなった。入浴を促す際「お風呂」の言葉を聞くと入らなかつたが、お風呂の声掛けをしても拒否なく入浴するようになつた。また、軟便が減ることで不穏になることが無くなつた。

5. 大里コメント

2ヶ月で認知症状を全て消失する事が出来たのは、きちんと原因を追究し、理論に沿って取り組む事が出来ていたので早期に改善できたと思います。また、2事例目初回から、何が不足していくどうすれば良いのか分析が出来ていきました。今後も利用者さんの体調を整えながら、認知症状を改善していってください。

事例6

K.H 様	女性	92歳	要介護度 3
既往歴	アルツハイマー型認知症、高血圧症		

1. 水分・食事・排泄・運動の状況と変化

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
水分 (cc)	開始時 終了時	1500 1500	1500 1500	1500 1500	1500 1500	1500 1500	1500 1500
栄養 (食)	開始時 終了時	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
排泄 (回)	開始時 終了時	0 0	2 1	0 1	1 0	1 1	0 1
運動 (分)	開始時 終了時	5 15	5 0	5 20	5 45	10 10	10 30

2. 経過と結果

	初回の状況と課題	工夫と経過	その結果
水分	初回平均: 1414cc 水分制限 1500ccまで	心不全の診断がされ、水分制限が課される。	平均: 1500cc
栄養	初回平均: 3食全量摂取		平均: 3食全量摂取
排泄	初回平均: 週3回	ファイバーやでるでる茶を飲用。	平均: 週4回 下剤を使用せず排便が見られる。
運動	初回平均: 6分 時々足の痛みあり。	1日400m目標 パワーリハビリ 2回/週	平均: 17分 散歩中自ら挨拶するようになる。

3. 認知症状の変化

参加前の症状	改善度
上着のすそ、靴下をしゃぶる	消失
手袋集め	消失
自分の食事を他利用者へあげる	消失
ティッシュ集め、口に含む	ほぼ消失
コップをズボンの中に入れる	ほぼ消失
そわそわ落ち着かなくなる	変化なし

4. 塾参加後の様子

水分量1800cc増加可能か嘱託医に相談したが、心肥大のため1500ccまでと指示受けた。認知症状が大きく消失した感じがない。外を散歩したり運動量が増えてから、午後になると傾眠がちになっている。

5. 大里コメント

取り組みが毎日統一されていないため、症状が消失しても、職員が替わるとまた認知症状が見られています。今回は、取り組みをきちんと行った日の症状改善度で評価しましたが、K.H様が不安のない生活を送るためには、統一したケアを行うことが重要です。どうしたら統一したケアを継続できるか考え、取り組みを継続してください。